

会報◎男性介護者と支援者の全国ネットワーク

男性介護ネット通信

No.5
2010.8

ひとりじゃない。
生きる勇気がわいてきた。



2010年8月25日●発行
「男性介護ネット通信」
通巻5号

発行●
男性介護者と支援者の
全国ネットワーク
<http://dansei-kaigo.jp/>
info@dansei-kaigo.jp

介護者の声を 世界に！

第5回
世界介護者
大会速報

from UK
News

二〇一〇年七月八日から一日にかけて、イギリス北部の都市リーズ（ヨークシャー州）において、第五回世界介護者大会（5th International Carers Conference）が開催された。まだ夏を迎えていないこの地に参集したのは、EUや北米を中心に、世界約二〇カ国から四〇〇名以上。二〇一〇年以降のケアにおける新しい地平 new frontiers in caring: 2010 and beyond」をテーマに、四日間に関わり熱い議論を戦わせた。

リーズは、人口約七〇万人、ロ

ンドンから電車で二時間半、北イングランドのビジネス都市である。介護者運動を牽引してきたイギリス最大の介護者団体「Carers UK」とともに、イギリスの介護研究を牽引してきたリーズ大学が、今回の大会の主催団体であった。筆者は前半二日間のみの参加しか叶わなかったが、今回は、そこでの議論の紹介を通じて、介護者支援にかかわる世界的な取り組みをここで紹介したい。

大会は、リーズ市長の開会記念講演を皮切りとして、全体会と分科会あわせて一〇のセッションに分かれていた。分科会は、一つのセッションにつき、九から一〇の部屋に分かれて、個別テーマについて小グループで集中的に議論が行われる。各分科会で設定されたグループを総計すると四六、発表は二五九に及んだ。今回の大会では、四つのコンセプト、「デザイン・テクノロジ・居住環境」、「介護と雇用問題」、「財源および経済的・法的サポート」、「健康・ソーシャルケア・福祉」が設定されていた。以下では、私が聞いた報告の中で、

興味深かったものを中心にまとめてみたい。

「介護と雇用問題」分科会では、おもに介護と仕事との両立がテーマとなっていた。イギリスではすでに六〇〇万人が何らかの形で家族や友人・近隣の人の介護にかかわっており、そのうち四四〇万人が三〇代から五〇代前半の、働き盛りである。日本と同様に、すでにイギリスでも二三〇万人が介護離職を経験しており、職場への復帰も難しいという報告もあった。働き盛りの労働者が仕事と介護をいかに両立するかという問題は、単に介護者の個人的な問題だけではなく、まさに経済的な問題であり、こうした事態は、先進諸国の



会員のみなさまへ 2010年度 会員継続のお願い

2010年度も引き続き会員としてご継続いただきたく会費（個人会員一口千円～、団体会員一口三千円～）を前号同封の郵便振替用紙で納入くださいますようお願いいたします。

口座番号 00910-4-194420

名義

男性介護者と支援者の全国ネットワーク



「認知症の人と家族の会」京都府支部

男性介護者のつとめ

PROFILE ●
主催・問合せ先：
公益社団法人
「認知症のひとと家族の会」京都府支部
代表：荒牧敦子
TEL：075-811-8399
FAX：075-811-8188
年会費：5000円

男性介護者のつどいは偶然から生まれた。二〇〇七年七月のリフレッシュ旅行で小豆島からの帰りの船の中で、男性五人がビール缶片手に雑談に花を咲かせていた時、誰かが「男性だけの介護者のつどい」を開いてみてはどうかと発言した。難しいことは考えずに「それは面白い、一度やつてみよう」と軽いのりで一同が賛成した。それがきっかけである。何回も続けるつもりもなく、どんなつどいになるか試したいとの思いが強かった。京都府支部のつどいそのものは男女参画の一般のつどいが毎月開催されており、運営の仕方は共通認識として持っていたため迷いはなかった。

このつどいの特徴は公益社団法人 認知症の人と家族の会（以下「家族の会」）

京都府支部（以下支部）の活動の一環である。支部のつどいは先ほど紹介した一般のつどいと若年性認知症のつどいが他にある。会場の確保・費用、協力要員、配布資料、広報などは支部会計や世話人が担当してくれる。これが他団体の男性介護者のつどいとの大きな相違点である。

開催は偶数月の第一土曜日、時間は午後一時から三時半まで、参加予約は不要で、認知症の人を介護する男性介護者であれば誰でも自由に参加できる。「参加費として会員は二〇〇円、非会員は五〇〇円を支払う。広報は『家族の会』会報、京都・朝日・毎日・読売などの新聞、電話相談時の参加勧誘、つどいの様子は支部会報に掲載し知らせていく」などを運営骨子として

その年の一〇月に初回の「男性介護者のつどい」を開催した。

何人集まるかが最大の関心ごとであったが、新規二名の総勢八名の参加者があり、まずまずの出足となった。これまでに一八回開催し参加者も次第に増え、平均一二名（うち新規三〜四名）が集まる会となつてゐる。

つどいでは参加者には誰を介護しているか、要介護者の年齢、要介護度、病名、今一番困っていることなどを話す必須項目としている。運営で注意している点は、新規参加者にいかにして本心を吐露してもらうかであり、常連者に先に話をしてもらい、「あんなことを言つても大丈夫なんだな」と分り話をしてもらうことを基本としている。参加者の

年齢は六〇歳〜九〇歳と幅があり、配偶者介護が大多数である。認知症の初期症状は人格が変わり対応に苦慮して情報を求めて来る人が多い。印象に残る話では高齢の夫が妻に交渉を求められて困っていることや、七〇歳を過ぎた妻がすぐに荷物をまとめて家を出て行くので困っているとの訴えに対して、「若い娘じゃあるまいし、何も起きないからほっておけばよい」のアドバースに大笑いした。

つどいの効用は複数あるが一つあげると、「自分の介護よりもっと困難な介護をしている人がいる。自分ももっと頑張らなければならぬ」と気づかされる」そして同じ介護仲間がいると勇気をもらせる。

（京都府支部 世話人 男性介護者担当…芦田豊実）

高齢化という人口動態の変化によって、ますます切迫すると認識され始めている。とりわけ興味深かったのは、ケアラーズUKの活動の一環として行われている、雇用主向けのプログラム(Employers for Carers)とある。こので焦点化されていることは、①企業にとつての利益としての介護者支援と、②新しい企業文化の創造である。介護を抱える労働者のほとんどが、自らの潜在能力を職場で十分に発揮できておらず、このことは企業にとつても大きな損失につながっている。また、目に見える／見えないさまざまな介護者に対する職場での差別によって、介護していることを公表しにくい職場環境が生まれやすくなる。こうした点に配慮

したうえで、雇用主が取り組まなければならないことは、法令順守、介護者の直属上司との密接なコミュニケーション、企業文化の変化である。介護者のための取り組みは、単に介護者のみならず、人種の異なる労働者や障害者など、多様な労働者のマネジメントという観点からも、労働者のストレスを軽減し、企業の生産性の向上に結び付くと、報告では結論づけている。ケアラーズUKでは、個別企業の優れた実践例 (good practices) の収集を行いながら、雇用者向けのパンフレットを作成し、企業や各種団体に対するトレーニングや相談など、企業に対する働きかけを強めている。

「財源および経済的・法的サポート」分科会では、介護者が、独自の生活を営む権利をもつ存在として、どのようなサポートがありうるのか、また各種サポートの現状と課題について報告があった。私が最も聞きたかった報告は、今年三月の男性介護研究会のシンポジウムでも紹介した「介護者のニーズアセスメント」についてである。日本でも介護サービスを利用する前に、利用者のニーズアセスメントに基づいてケアプランが作成されるが、イギリスで

は、ケアマネジャーが、利用者だけではなく、家族や友人などの介護者のニーズも聞きとって、ケアプランに反映させることになっている。たとえば、仕事との両立や介護者のための「休息」なども、ケアプランに組み込まれることになる。今回の報告では、要介護者をとりまく人間関係を、専門職や支援者がどう把握していくのが主たる論点となっており、とりわけ別居介護者のニーズアセスメントの利用率が低いことが、問題の一つとして指摘されていた。また介護者のニーズアセスメントにおいて、介護者の「能力（ability）」——どんなことができるか／できないのか——のみに支援者が着目しがちで、介護者の「意思（willingness）」——何がしたいのか／したくないのか——が軽視される傾向も指摘されていた。

イギリスでは去年の六月に総選挙があり、戦後初めて連立政権が誕生した。従来介護者支援を推進してきた労働党は大敗を喫し、政治が右傾化したことで、介護者支援も大きな岐路を迎えている。それにもかかわらず、この大会には、国会議員をはじめ、保健省の担当者などの要職者が出席し、参加者と積極的な意見交換を行っていた。

日本ではしばしば家族介護者支援の強調が、福祉政策の充実とのトレードオフとして語られがちであるが、政治と民主主義の成熟こそが、介護者支援を切り開く何よりも重要な基盤となるということを変更して痛感した。

そして何よりも今回私にとって「目からうろこ」だったのは、企業の介護者支援への積極的な参画である。全体会では、世界最大の半導体メーカーであるインテルから、介護者の日常生活について、写真やビデオといった自らのデジタル技術を駆使した膨大な記録を通じて、介護者の声を生かす機材の開発プロセスが紹介された。会場内には、他にもたくさんの企業がブースを出しており、住宅設備や、遠隔介護(Telecare)のためのサポート、障害をもつ人とのコミュニケーション支援など、企業のチカラが新しい介護の地平を切り開く大きな動力となっていることを肌で感じる事ができた。

日本でも、介護者の権利擁護を目指す「ケアラー連盟」が、先月発足した。世界の動きを力にして、日本で生まれた新しい芽吹きを、大切に育んでいかねければならない。

(男性介護ネット運営委員・立命館大学 斎藤真緒)



7月8日 第5回世界介護者大会開会式

会員からのお便り

神戸で「男性介護者の会」を立ち上げる意志を固めました

▼兵庫県・Nさん 58歳

介護と仕事の両立は結構手間取り、まだまだ落ち着いたとはいえない。そんな中で一周年記念大会レセプションでお会いしたNさんのお導きで何とかこちら方面の「男性介護者の会」を立ち上げる話に動こうと意志を固め始めたところです。手探りでやっていくつもりです。個人としては大したネットワークもなく非力ですので、パワフルな彼女の行動力に負うところ大ですが、御会のお力も頼りにする次第です。

それにしても男性介護者のネットワークにあるのは仕事との両立。つまりは生活不安と同居することにあるのではとつくづく感じます。私にしても、失職、離職への不安があります。

介護体験を話し、声を出していく必要を感じて

▼三重県・Sさん 81歳

要介護5の妻を六年間在宅介護。病状が進み入院を繰り返すようになり、病院へ通っていると、職員から学習会で介護体験を話してほしいと頼まれました。その後、医療生協学習会、男女共同参画フォーラム、三重県男性介護講座などでも話しました。

二四時間介護で外出もままならない生活が長かったので、人前で話すのに苦労していますが、でも足をふみ出して、声を出していかなければと思っています。

通信4号の和歌山県のTさんへ施設介護が幸せ

▼岐阜県・Sさん 80歳

私は自宅介護より施設介護（グループホームも含む）のほうが、患者本人にとっては幸せな人生を全うすることが出来る……且つ家族が原則毎日その施設を訪問することを条件にしてと確信している

もので、男性介護者ネットワークとしても施設介護の推進と介護施設の増設に努力して下さるようお願いする者の一人です。

妻を介護し、今は自分の身一つで精一杯

▼福岡県・Iさん 84歳

一九九〇年～二〇〇七年、痴呆妻を看了。今や自分の身一つで精一杯。一人勝利死を目ざす。活動からは引退します。日時は不明だが、近づいたことは確か。サイズが大きく生きよう、さようなら！

医療の崩壊？病院で落ち着いて診てもらえない

▼大阪府・Yさん 48歳

昨年春頃から感じ始めていることですが、地域の医療機関（開業医も病院も）がケチケチムードで雰囲気は落ち着かなくなってきたように思われます。診療報酬や薬価基準の改定が影響しているのかもしれませんが。八〇歳になった母も「お医者さんや看護師さんが忙しなそうにしてい

ると、落ち着いて診てもらえない感じがする。正直にいつて不安だ」と申します。

地域医療の崩壊リスクが新聞や雑誌、TV番組で取り上げられる機会も増えてきました。ただでさえ「医療と介護の連携」が重要であるといわれているのにこの先どうなるのだ……？ 地方ばかりでなく、大都市近郊でも「医療崩壊」への軋みが聞こえ始めているように思われてなりません。ネットワークの皆さまはどのように感じておられますか。

年金が少なく、施設どころか、ヘルパーも頼めない

▼福岡県・Yさん 61歳

全国の介護している人へ、ご苦労さまです。男女ともに家庭での完全介護は大変です。施設での業務で対応する介護と自分の親を介護する内容や対応は完全に異なります。

小生は母親を介護して二年になります。右手足マヒ、失語症、認知症を伴った母の介護は介護

介護体験記は介護の示唆になりました

▼神奈川県・Nさん 79歳

介護体験記は妻を介護している私に貴重な示唆を与えてくれました。ケア施設の「介護者の集い」などで本会の活動をPRしたいと考えています。

新しい介護体験記の発行を待ち望みます。

地域ごとでの経験交流会の開催を

▼神奈川県・Nさん 69歳

二年目のスタートよかったですね。私も今後少し時間ができるので、介護体験を書かせていただきます。自分の妻がアルツハイマーに認定されて五年目、最初の一二年は普通に近い生活だったのですが、三四年目には徘徊

などで悩まされ、現在はこれと止まっていますが、他の周辺症状が出ています。

今回送っていただいた通信などとても参考になることが多いです。できたら、一年に一回でも地域ごと（関東だったら東京とか）に経験交流の機会があると参加できるのですが。

病気の本質にそった、医師の適切な説明がほしい

▼奈良県・Iさん 74歳

介護の扉を開くのは介護者です。

どのような病気になっても病気の本質にそって見通しをもって治療がおこなわれます。治療できる薬がないアルツハイマー病ではせめてアルツハイマー病の本質に沿った介護が行われるように医師の説明があつてあたり前のことです。でも現実には適切な説明はありません。医師自身が発症からターミナルまで介護した経験がないからです。だから、介護者自身が本人の症状を客観的に見つめていくこと、出来るこ

認知症介護は初期段階こそ、要介護度を重くして

▼新潟県・Nさん 81歳

認知症の妻を八年間介護中です。八〇歳台の男は一家を支えるため外で働き、家計は一切妻に任せてきました。それがある日突然、介護者になり、たどろたえるのみでした。

現在の介護保険制度は当初の要介護度認定は低く、二三年後に2から3になり、ようやく4になるという傾向です。介護は初期の段階が大切といいますが、やっていることは逆です。落ち着いて介護できるようにしたら、4を3にダウンするといふこともあつていいのではないかと考えます。施設介護と在宅介護のバランスが何よりも重要ではないでしょうか。在宅で死を迎えるためにも……

簡単にできるムース食のレシピがほしい

▼石川県・Yさん 65歳

若年認知症の妻（六一歳）を介護中です。症状は寝たきりで在宅で車椅子生活をさせています。パーキンソン症状、関節拘縮、床ずれ、夜間の全身ケイレン発作など症状は進行中です。どうにか週三回のデイサービスのみを利用しています。在宅での介護は大変ですが、一緒に歩んできた妻に出来る限り寄り添う介護をしてやろうと思っています。

今困っていることは食事の副食づくりです。咀嚼、飲み込みの機能を衰えさせないため、流動食（ミキサー食）よりムース状にして食べさせています。食べやすさ、栄養面を考慮したものを作るのが日々頭を痛めています。介護中であり手間をかけた調理は時間的、能力的にも難しく、簡単レシピを伝授してほしいと思っています。市販されている介護食は適当なものがありません。



5

俺流の介護

皆さんの介護体験から生まれた
十人十色の介護ノウハウの
共通コーナーです

会員 林 秀行
兵庫県・神戸市

「介護は仕事」

(現在母八二歳 要介護4、私五八歳)

四年ほど前の小さな骨折を期に母がだんだん歩けなくなり、妻のいない私が仕事をやめて介護専任に。その後突然、激しい悪夢、夜間せん妄、絶叫の日々が始まり、ただただオロオロの数カ月が続いたあと、水も一切口から摂取ができなくなり入院。半年後やっと落ち着きもでて退院。頭は二歳〜七歳ぐらいになった母の自宅介護生活を再開してから現在で二年半が経つ。今思えば、いつがきつかったかと言え、始まったばかりのころのせん妄時代。私も連続して二時間寝ることができず、呼べど叫べど、ゆすつても決して悪夢から出ることのない母に「いいかげんにしてくれ!」と怒

鳴ることも。その時思ったのが、「こういう日々が」「こういう感情が」続けば、暴言、罵倒、暴力といった「地獄の介護」に突き進んでしまう。それだけは絶対に避けようとの誓いでした。そこで考えたのが「介護は仕事」という発想でした。元々がフリーの営業マンだったので、夜中でもお客様様のクレームに笑顔で対応は当たり前。相手が間違っている、自分が落ち着くまで、ただただ頭を下げるのも仕事のうち。そう考えると気分転換も非常に楽になり、食事排泄もできるだけテキパキとこなして、ひと仕事終われば後に引きずらず、呼ばれると、返事ひとつでも「ハイ」「ハー

イ」「なんでつか」と言い方、イントネーション、声の高低も変え、どんなのがお客様(母)に喜ばれるかと工夫の日々。仕事と思えば手抜き、外注も要領のうち。だから介護サービスも全面利用。ひとは様々なので、この考え方が一番とは言わないが、少なくとも私には、「介護は愛」「介護は気持ち」の考え方は重たすぎ、何か無制限の重圧を感じてしまう。仕事なら失敗しても反省して改良すれば問題はなく、「継続こそ力なり」を企業理念に、たった一人の顧客相手の「介護屋」でできるだけ長く続けていこうと考える今日この頃です。追伸 仕事にも余裕ができたせいか、最近、「母がかわいいなあ」と思うようになりました。一種の職業病かな。

INFORMATION

男性介護者と支援者の全国ネットワーク

全国の男性介護者がつながり・広がる in 長野

日時：2010年10月9日(土) 場所：長野 上田温泉 祥園 | 定員：80名 参加費：500円

プログラム

13:00~13:40 主催団体の挨拶・紹介
13:40~14:40 パネルディスカッション「全国の活動から見て来た」
14:50~16:20 「当事者の語りに耳を傾ける…語りからつながりへ」
当事者によるリレートーク
16:20~16:50 全国ネットワークへの思い 男性介護ネット代表
17:00~20:00 交流会 上田温泉 祥園 参加費別途

主催「男性介護者と支援者の全国ネットワーク」
「シルバーバックの会」
連絡先「シルバーバックの会」事務局(担当:望月)
E-mail enishi005@ued.janis.or.jp
TEL.0268-72-9066 FAX.0268-61-4010

キリン福祉財団の助成金事業

当世 介護事情

第4回

男性介護ネット・太田貞司(神奈川県立保健福祉大学教授)からの介護事情です。介護保険等に関する情報や動きを紹介いたします。

フィンランドには「ラビホイタヤ」というケアワーカーの資格がある。日本で、ケアワーカーと言えば、「介護福祉士」と誰もがすぐに思い浮かべるが、日本の場合とは少し違う。フィンランドは、今後、日本ほど高齢化が進むとは予想されていないが、それでも北欧の中ではトップクラスと予想され、介護の問題が課題だ。このあたりは、日本と変わらな

い。この「ラビホイタヤ」の資格は、一九九二年に試行的に二年半養成で始まった。その後、延長されて三年になった。私が、この資格を最初に知ったのが二〇〇〇年。翌年、フィンランドで実際にこの「ラビホイタヤ」の学生に会って以来、関心を持つようになった。どうも「介護福祉士」とは少し違う、「ラビホイタヤ」の英訳が「プラクティカル・ナース」なので「准看護」と紹介されるが「准看護」とも違う、と思った。この資格は、それまでの介護や保育助手等の福祉職、准看護等の医療職の基礎的な一〇資格を統合して生まれた。日本の介護福祉士と比べると、より幅広い業務だ。面白いのは、病院の受付の事務、救急車の救急隊の一員にもなる。また認知症や精神科領域の仕事もする。ほんとうに幅広い業務内容だ。

資格創設の頃、ちょうど、日本と同様にバブル経済がはじけ、不況であった。医療や福祉制度の改革があり、地域ケアへという方向が打ち出された。日本でいえば、「在宅重視」「住み慣れた地域で暮らす」が高齢者ケアの基本となり、介護保険制度創設の議論が始まろうとしていた頃だ。その後、フィンランドは不況を乗り切っていく。また、周知のように教育水準が「世界一」と、世界にも知られるようになる。

ワンポイント アドバイス

男性介護者のための介護編

異常の早期発見・介護の工夫を紹介いたします

涼しくし脱水予防

今月のアドバイザー

訪問看護師・松村美枝子さん

●部屋を涼しく

クーラーは長時間使っていると冷えすぎたり、部屋が乾燥してきます。濡れたタオルを6畳に2本くらい下げておくと良いです。温度設定は28℃にし、冷気は下に沈んでいくので扇風機を使って下から上に上げていきましょう。

●脱水症になると

体温が上がる(汗がかけないので体温調節ができない)。認知症のように会話が成り立たない。元気がない。うつらうつら寝てばかりいる。意識がない。などの症状がでます。

●早期発見のポイント

排尿が少ない。尿の色が濃い(茶色)。脇の下を触ると乾燥している。口の中も乾燥している。特に、脇の下は本来湿っているところなので乾燥しているということは体内の水分が足りない状態であることがすぐにわかります。

●脱水症の対応

口から水分が飲めるようなら、イオン水(〇Sー)がお勧めです。薬局で売っています。

または、1ℓの水に塩をティースプーン半分と砂糖をティースプーン4杯入れ良く混ぜて飲みませましょう。砂糖は水分や塩分の吸収を助けます。

口から飲めない場合は、すぐに医師に連絡しましょう。



8月

都道府県	日 時	内容→場所	連絡先
神奈川	8月20日(金) PM1:30~3:30	男性介護者の集い→アートフォーラムあざみ野	介護者サポートネットワーク「かいで勝手連」 kaigo-k@live.com
兵庫	8月21日(土) PM1:00~3:00	男性介護者の集い「のんびり倶楽部」→伊丹市南町高層住宅	NPO法人スマイルウェイ ☎0797-62-9320
	8月28日(土) PM1:00~3:00	男性介護者の集い「のんびり倶楽部」→宝塚市社会福祉協議会 小林よりあいひろば	
大阪	8月16日(月) PM1:00~3:00	男性介護者の会→大東市立生涯学習センター「アクロス」	
滋賀	8月28日(土) AM10:30~PM2:00	男性介護者のつどい→大津市 逢坂会館	認知症のひとと家族の会 滋賀県支部 ☎077-567-4565

9月

都道府県	日 時	内容→場所	連絡先
北海道	9月18日(土) PM1:30~4:00	男が介護するということ →ポルトPORTO (北翔大学北方圏学術情報センター)	北海道男性介護者と支援者のつどい事務局 ☎011-827-1383 (NPO地域サロンじゅげむ倶楽部内)
東京	9月10日(金) PM1:30~3:30	男性介護者サロンM→荒川区社会福祉協議会3階	荒川区男性介護者の会オヤジの会 ☎03-3802-3338 (荒川区社会福祉協議会)
神奈川	9月17日(金) PM1:30~3:30	男性介護者の集い→アートフォーラムあざみ野	介護者サポートネットワーク「かいで勝手連」 kaigo-k@live.com
長野	9月4日(土) PM2:00~3:00	男性介護者ミーティング→上田市地域生活支援センターえん	シルバーバックの会 ☎0268-72-8039
	9月11日(土) PM2:00~3:00	男性介護者ミーティング→小諸市相生町ノア	
兵庫	9月11日(土) PM1:00~3:00	男性介護者の集い「のんびり倶楽部」 →宝塚市社会福祉協議会 小林よりあいひろば	NPO法人スマイルウェイ ☎0797-62-9320
	9月23日(祝・木) PM6:00~8:00	男性介護者の集い「のんびり倶楽部」 →伊丹市 力湯(※お月見です)	
	9月30日(木) PM1:00~3:00	男性介護者の集い「のんびり倶楽部」→宝塚市 ふれあい鹿塩の家	
大阪	9月3日(金) AM1:00~3:00	男性介護者きたいの会 →いきいきプラザ(伊丹市立地域福祉総合センター)	伊丹市社会福祉協議会 ☎072-779-8512
	9月20日(祝・月) PM1:00~3:00	男性介護者の会→大東市立生涯学習センター「アクロス」	NPO法人スマイルウェイ ☎0797-62-9320
	9月25日(土) PM1:30~3:30	「介護保険制度を糺す(仮)」→立命館大阪オフィス	男性介護研究会(立命館大学人間科学研究所内) ☎075-465-8249
岡山	9月19日(日) PM1:00~4:30	「集まれ男性介護者!! 交流会」 →岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館	岡山男性介護者の会 ☎086-272-7906

10月

都道府県	日 時	内容→場所	連絡先
神奈川	10月15日(金) PM1:30~3:30	男性介護者ミーティング→アートフォーラムあざみ野	介護者サポートネットワーク「かいで勝手連」 kaigo-k@live.com
長野	10月2日(土) PM2:00~3:00	男性介護者ミーティング→上田市地域生活支援センターえん	シルバーバックの会 ☎0268-72-8039
京都	10月2日(土) PM1:00~3:30	男性認知症介護者交流会→京都社会福祉会館	認知症のひとと家族の会 京都府支部 ☎075-811-8399
兵庫	10月16日(土) PM1:00~3:00	男性介護者の集い「のんびり倶楽部」→伊丹市南町高層住宅	NPO法人スマイルウェイ ☎0797-62-9320
大阪	10月1日(金) PM1:00~3:00	男性介護者きたいの会 →いきいきプラザ(伊丹市立地域福祉総合センター)	伊丹市社会福祉協議会 ☎072-779-8512 ※11月5日(金)、12月3日(金)も開催予定です
	10月18日(月) PM1:00~3:00	男性介護者の会 →大東市立生涯学習センター「アクロス」	NPO法人スマイルウェイ ☎0797-62-9320
	10月3日(日) PM1:30~3:30	男性介護者のつどい →宮崎県総合福祉センター 2F 研修室	認知症のひとと家族の会 宮崎県支部 ☎0985-22-3803



**連絡先(事務所)の
移転のお知らせ**

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学人間科学研究所気付 Tel&Fax:075-466-3306

E-Mail:info@dansei-kaigo.jp http://dansei-kaigo.jp ※電話は当面毎週水曜日の午後1時~4時、その他はFax又はMailにてご連絡ください。

**会員のみなさまへ
寄付のお願い**

男性介護ネットは、発足1年目で会員数400名を超える団体へと飛躍的に拡大しました。2年目からはより積極的な活動を進めていきたいと考えております。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。会費納入と併せて寄付にもご協力いただければ幸いです。

(副代表 鎌田松代)

七月に開催された「認知症のひとと家族の会」京都府支部のリフレッシュ旅行では現役介護者の半分近くが男性でした。宴会では妻の肩を抱きデュエット、最後には頼すりやキスまで飛び出し、大変な状況の中にも愛情あふれるまなざしや、やさしさといったの介護が随所にみられた旅行でした。見ている私も幸せな気分になりましたが、その反面「こんなに頑張ってる大丈夫かな」と心配になりました。女性にはない一途な介護だと思いました。そんな熱心で一生懸命に介護する男性介護者が挫折したり、精神的に病まないような支援の必要を感じました。またこのネットワークの存在の周知活動も一〇月は長野県、一一月は福岡県で交流会を開催します。会員のみなさま、広報をよろしく願います。

**後編
編集集**

Vol.5



発行所●男性介護者と支援者の全国ネットワーク

発行人●荒川不二夫

編集協力/クリエイツかもがわ 印刷所/新日本プロセス株式会社

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 立命館大学人間科学研究所気付

TEL & Fax : 075-466-3306

URL:http://dansei-kaigo.jp E-mail:info@dansei-kaigo.jp

※電話は当面毎週水曜日の午後1時~4時、その他はFax又はMailにてご連絡ください。

【転載時は事務局にご連絡ください】